

関西の社長に甲南学園出身が多いのは…

『ぺっぴんさん』モデルも



甲南学園の創立者、平生鈇三郎氏（1866～1945年）

NHKの朝ドラ「ぺっぴんさん」が始まった。このドラマは神戸発祥の子供服ブランド「ファミリア」がモデルだ。社長の岡崎忠彦さんは幼稚園から大学まで生粋の甲南ボーイ。甲南出身の社長は兵庫県で最も多いが、その背景には創立者、平生鈇三郎の精神を柱とした教育があるという。（北村理）

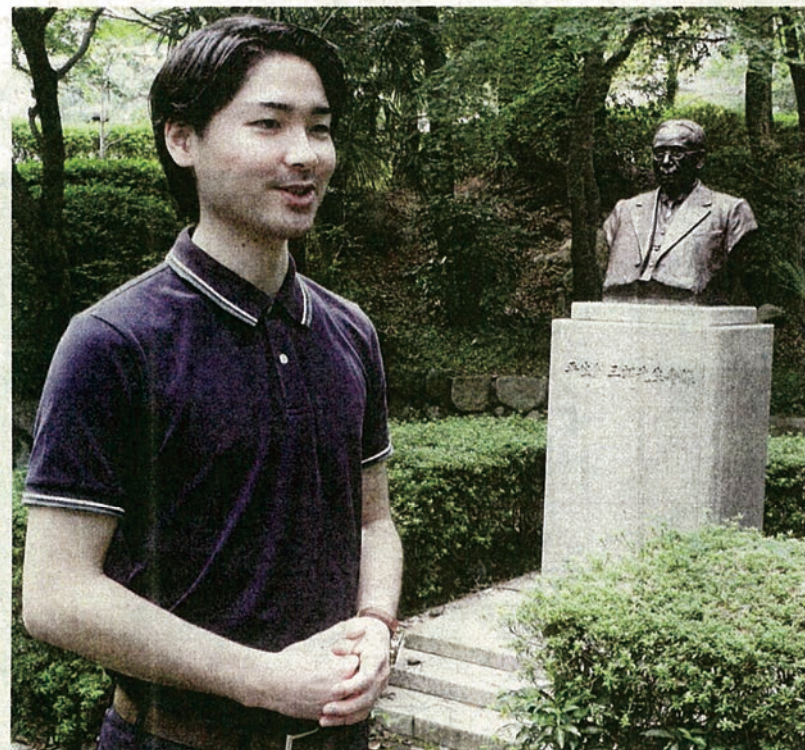
創立者 平生鈇三郎の薫陶

甲南出身の経営者は、ファミリアのほか、ミスノ、UCC上島珈琲、象印マホービン、小林製菓、塩野義製薬、竹中工務店、サントリ、三ツ星ベルト、小西酒造、モロゾフなど、さまざまな業種にわたる。

これらは一部にすぎないが、なぜ、これほどまでに活躍する企業家が多いのか。卒業生らは「平生先生の教え」をあげる。

平生鈇三郎は今年、生誕から150年となる。来年生誕150年となる夏目漱石、正岡子規らと同世代だ。企業家としては、東京海上保険（現東京海上日動）時代は他の保険会社と先駆け大阪支店を開設、倒産寸前の川崎造船所（現川崎重工）を再建。

この間、居住地神戸では、企業家仲間など地域住民とともに、教育や医療、生活環境の改善に尽力し、甲南学園、生協、病院を設立。広田弘毅内閣では文部大臣に就任し



創立者平生鈇三郎氏への思いを語る本郷友崇さん—神戸市東灘区

甲南中、高、大学では、平生氏の足跡について、評伝や訓示集などの教材を使い、授業や講座を通じて教育する。甲南高校同窓会のホームページ

年、阪神大水害で甲南学園が被害を受けた際、復旧作業する学生らに、危機管理の大切さを示した訓示として、今も甲南小、中高、大学に碑が残る。また、平生氏の遺訓を経営

両氏は、「世界に通用する紳士たれ」といった平生氏の遺訓のもと、人格形成を目指す徳育が重視されていた校風を「自由闊達に青春を謳歌した」と振り返り、また、不断の努力を求める平生氏の言葉「常に備えよ」を「今も身に染みる金言」とあけている。「常に備えよ」は、昭和13

する企業の社訓として掲げる卒業生もいる。

こうした「平生精神」は卒業生のみならず、甲南大に在籍する現役の大学生にも引き継がれている。

経営学部4年の本郷友崇さん（21）は愛媛県出身で、得意なサッカーを生かしAO入試で入学。入学後もスペインのほか、文部科学省などによる留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN」でドイツへサッカー留学した。

「帰国せず、ヨーロッパでプレーを続けようと考えた時期もあった」。しかし、ドイツでの留学なかばで骨折。大学へもどるかどうか迷ったとき、大学のホームページをみていたら、平生氏の「人生三分割論」が目にと飛び込んだ。

人生の第二段階は「勉学にこそしむ」、第二段階は「社会人として仕事に邁進」、第三段階は「社会で培った能力

を社会奉仕に生かす」とあった。「スポーツで日本社会を変えたい」と思い始めていた本郷さんはそのことを人生の目標に置き、「今は勉強に励む時期—と大学に戻ることを決意、ドイツ語を猛勉強し今春帰国した。

今月下旬には、京都、東京で開催される文科省の「スポーツ文化ワールドフォーラム」に登壇し英語でスピーチする。「留学前は英語はしゃべれなかった」という本郷さん。「平生先生の言葉に生き方を見いだし、モチベーションが高まった」と話している。

同学園によると「平生先生は多様で豊富な経験から、人は喜怒哀楽でこそ動くと考え、感性豊かな人間に育つことを学生たちに願った」。3年後に創立100年を迎える同学園は「平生精神を広く情報発信していきたい」としている。



平生精神を学ぶ甲南学園の教材